

医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	自家末梢血幹細胞移植併用大量メルファラン療法を行う多発性骨髄腫患者を対象とした3剤併用制吐療法の有効性に関する後方視的研究
研究責任者	加藤淳平
研究機関名	日本赤十字社医療センター
研究目的と意義	<p>【研究の概要】 自家末梢血幹細胞移植を伴うメルファラン大量化学療法は、若年者（通常65歳未満）多発性骨髄腫に対する重要な治療とされています。本治療は高い抗腫瘍効果が期待される一方、副作用として悪心・嘔吐、口腔粘膜炎、下痢、好中球減少が起こる可能性のある治療法であり、吐き気対策や感染症対策が特に重要です。</p> <p>現在、抗がん剤の種類に応じた吐き気止めの使い方が、『制吐薬適正使用ガイドライン第2版 日本癌治療学会編集』により提唱されています。しかし、本治療に関してはガイドラインに準じた吐き気止め（グラニセトロン、デキサメタゾン）を使用しても、効果が不十分であることが示されています。そこで、当センターでは吐き気止めを3剤（パロノセトロン、デキサメタゾン、アプレピタント）を使用することにより、患者さんの吐き気の程度や食欲低下を改善するサポートをしています。</p> <p>【目的・意義】 当院において、自家末梢血幹細胞移植を受けた多発性骨髄腫の患者さんに使用した吐き気止めの効果を明らかにすることを目的としています。なお、本研究はカルテ調査により実施いたします。</p>
研究方法	<p>当院において、2020年7月から2021年7月までに自家末梢血幹細胞移植の前治療としてメルファラン大量化学療法を行った多発性骨髄腫の患者さんを対象とします。患者さんの背景（病型、前治療歴、肝・腎機能等）、治療内容、治療効果について診療録をもとに匿名化を行った上でデータベース化し、解析を行います。</p> <p>倫理的配慮：個人情報保護には十分配慮を行った上で解析を行います。その結果は、薬学系の学会に公表されることがあります。上記対象に該当すると思われる患者さんで、本研究への参加を希望されない方は遠慮なくご連絡ください。なお、参加を希望されなくても治療や検査において何ら不利益を被ることはありません。</p>
問い合わせ先	<p>日本赤十字社医療センター 薬剤部 〒150-8935 東京都渋谷区広尾4-1-22 担当者：加藤淳平 TEL: 03-3400-1311 FAX: 03-3409-1604</p>